

# 編集後記

『大分県地方史』一九四号をお届けします。本号は、創立五〇周年を迎えた大分県地方研究会の記念号の第四として企画されたもので、これまで大分県地方研究の一つの核であった豊後大友氏に関する研究を中心に構成しました。そこで、現在精力的に大友氏に関する研究をすすめている松原勝也氏と鹿毛敏夫氏から投稿いただいた論説を掲載いたしました。松原氏の論説は、従来まで軍記物等を通して漠然と理解されていた大友氏による伊予出兵を、当該資料から詳細に再検討され、対毛利氏との関係の中で、その必要性を論じられたものです。また鹿毛氏の論説は、大友義鎮の収集した絵画や、狩野永徳との関係などから、戦国末期の大友領国内で開花した文化を「大友文化」として位置づけられようとする積極的な試みが窺えます。そしてまた、本号には、最近近代の中津について活発に研究を展開されている野田秋生氏の論説を掲載いたしました。野田氏の論説は、奥平大膳太夫の「開国」上書の検討を通して、中津藩の海防論の通説を再検討され、福沢諭吉の蘭学出発を海防論展開の中に位置づけられた興味深く示唆に富んだものであります。

最後になりますが、平成十七年度の大分県地方研究会大会までに刊行すべきであった本書の発刊が、編集者の責任で遅れてしまいましたことを会員の皆さまに深くお詫び申し上げます。

(三重野 誠)

平成十七(二〇〇五)年七月二十五日 印刷  
平成十七(二〇〇五)年七月九日 発行

## 大分県地方史 第一九四号

編集者 三重野 誠

発行者 豊田 寛三

印刷者 廣永 晴巳

印刷所 有限会社舞鶴孔版

〒八七〇一〇〇二二

大分市大手町二丁目三一四

(☎〇九七―五三二―四三三二)

発行所

〒八七〇一―一二四

大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育福祉科学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・〇二五八〇―二一五・九四)

事務局 大分県立先哲史料館

〒八七〇一〇八一四

大分市大字駄原五八七―一

(☎〇九七―五四六―九三八〇)